

サポート通信



大学入試センター試験での 提供可能な配慮の中に 「パソコンの利用」が入りました！

平成31年度大学入学者選抜
大学入試センター試験
受験上の配慮案内
 (障害等のある方への配慮案内)

出願前に申請する場合
 平成30年8月1日(水)
 ~ 9月28日(金) (消印有効)

※ 大学入試センター試験の出願期前日に審査結果の通知を希望する場合は、9月5日(火) (限日付) までに申請してください。

出願時に申請する場合
 平成30年10月1日(月)
 ~ 10月12日(金) (消印有効)

4-2 受験上の配慮事項一覧

大学入試センター試験における受験上の配慮について、主な配慮事項は次表のとおりです。これらの配慮事項は、障害等の種類や程度にかかわらず、必要に応じて、申請することができます。また、複数の配慮事項を申請することもできます。

配慮の種別	配慮事項	主な掲載ページ
解答方法や試験時間に関する配慮	点字解答 (試験時間を1.5倍に延長)	8
	文字解答	
	チェック解答	
試験室や座席に関する配慮	代筆解答	
	上記の他、マークシート用紙又はエレベーター	
	洋式トイレ又は盲導犬のいる座席を別室の設定	
	拡大鏡等の持参、照明器具の持参、補聴器又は人工的聴覚補助具、特製机・椅子の持参使用、車椅子の持参使用、杖の持参使用	12・14
その他の配慮	拡大鏡等の持参、照明器具の持参、補聴器又は人工的聴覚補助具、特製机・椅子の持参使用、車椅子の持参使用、杖の持参使用	12・14
	拡大文字問題用紙 (14ポイント・22ポイント)	8・14・22・23
	照明器具の試験場側での準備	8
	手話通訳士の配置	10
	注意事項等の文書による伝達	10・14
	リスニングの免除	11
	試験場への乗用車での入構	8・12・14
	試験室入口までの付添者の同伴	8・12・14
	介助者の配置	12
	特製机・椅子の試験場側での準備	12
「最後列」や「試験室正面に向かって左側」などの座席の指定、試験時間中の薬の服用、吸入器の持参使用、パソコンの利用など		

(備考)

1 受験上の配慮申請書(裏面)の「受験に際して希望する配慮事項」に記載がない配慮事項についても申請できますので、申請する場合は、希望する理由を申請書「②受験に際して配慮を希望する理由」欄に、具体的な配慮内容を申請書「③その他の希望配慮事項等」欄に記入してください。
 なお、パソコンの利用や上表に記載がない受験上の配慮事項を希望する場合は、事前に大学入試センターに相談してください。

「受験上の配慮事項一覧」の中の、「その他の配慮」に明記されています。この度、初めて「パソコンの利用」が配慮の例として挙げられ、紙と鉛筆以外の方法が加えられました。この一文は、大きく今後の入試の在り方を変えることになると思われます。私たちの指導・支援の「あたりまえ」を見直すきっかけになりそうです。

★ セルフアドボカシーという考え方

「自己権利擁護」と訳されますが、本人が自己の合理的配慮の意思決定をすることです。今後配慮を自ら申請していくことが求められます。ではその力をつけるためには何が必要でしょうか。まずは児童生徒自身が必要とする配慮について、本人と大人が“一緒に”考えていくことではないでしょうか。支援後には一緒に振り返り「やっぱり読んでもらうとわかりやすい。」「パソコンだと分かったことが素早く表現できる。」などの実感を伴うことが必須です。本人の意思を確認してバックアップしていくことがセルフアドボカシーへの意識を育てるもとになります。

★ アクセスしやすいテストの在り方の再考

大学入試に変化が起こったということは、今後、高校入試の在り方にも影響を与えられると思われれます。配慮の前に、私たちは日々の定期試験において、問われている内容に誰もがアクセスしやすいものになっているか、評価基準に沿った出題のされ方になっているか再度点検が必要であるかも知れません。

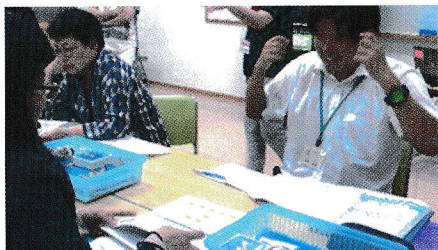
■ 夏のサポートセンター研修報告

8月7、8日にサポートセンター研修を行いました。今年度は、WISC-IVを2日間掛けて皆さんと勉強しました。

1日目は、検査器具を使って検査の内容を知ることから始めました。検査を参加者同士で行うことで、検査を具体的にイメージできるようになり、検査結果を見たときに内容が分かりやすくなったと感想をいただきました。下位検査の内容と合わせて、評価する能力についての講義もあり、たくさんの知識を得る1日でした。

2日目は、プロフィールの読み取りを行いました。「事例をもとにグループごとに考えることで、得意、苦手なことから手立てを導き出すことができた。」「いろいろな強み、弱みが分かってきた。日々の支援や、個別の支援計画等が細かく書けると思った。」と教育現場で生かせる力を身に付けることができたという感想を多くいただきました。

来年度も、「あなたの眼から見える世界は、あなた次第で変化する。」をモットーに、より日々の実践に生かせる研修をしていきたいと思っております。今後ともサポートセンター研修をよろしくお願ひします。



■ 「ビジョントレーニング」講演研修会報告

8月22日（水）に、本校OT訓練を担当していただいている宮口英樹先生〔広島大学〕と浪花里依先生〔(株)奏音〕を講師に迎えて、『ビジョントレーニングとその応用』という研修会を行いました。参加者は外部からの先生方も含め130名ほどになり、ビジョントレーニングへの関心が高まっていることを実感しました。研修は、まず参加者が二人組になって、互いの目の動きを観察する（目の前のペンを顔に近づけていき、目の寄り目具合を見るという課題です。）ことから始まりました。そこでは、スマートフォンを使って目の動きの動画を撮り合い、自分の眼球が予想以上に動いていないことに気づき、ビジョントレーニングの意義に実体験から迫っていきました。「眼球は筋肉なので、鍛えれば改善することができる。」という参加者にとっても安心できる言葉を講師の先生からいただき、その後、目の機能や視知覚、視覚認知などの概論の説明を受け、見る力が、体の動かし方や制御する力にも関係していることに、特に大きな反響がありました。実際のビジョントレーニングの方法については、他県の小学校で実践しておられる「眼球体操」などを全員で一緒に行い、「ナンバータッチ」などの具体的な教材も紹介していただきました。これらについては、2学期にすぐに取り組みたいという感想を多くいただきました。最後に本校の小学部の児童の実践報告があり、実際に子どもの姿が改善することを実感できたという声があがりました。その他にも先生方から「子どもの立場に立って、世界がどのように見えているのか、どんなところに難しさを感じているのか、しっかり見直していきたい。」というような素敵な感想もいただき、先生方に「子どもを見る目」を磨くことにつながる研修を提供したいという私たちの願ひは、達成されたようでした。参加いただいた先生方、本当にありがとうございました。

■ 視線入力装置で楽しく意思表示♪

視線入力装置を御存知ですか？人の視線の動きを捉えることのできる装置です。これを使うことで、見るだけでパソコンを操作したり、学習をしたりすることが可能になりました。視線入力装置を使った実践を紹介します。

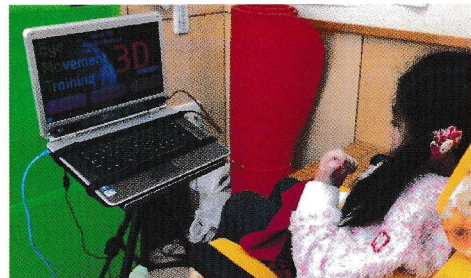
Aさんは、発語でのやりとりや手足を自由に動かすことは難しいのですが、楽しいときに笑ったり、好きな物や気になる物を見たりすることができるお子さんです。Aさんのもっている“見る力”を活用して、視線入力装置で楽しく意思表示をする学習を設定しました。



まず、見ることで操作できるということに気付けるように、見ることで音が鳴ったり、星が動いたりする分かりやすい仕組みのソフトで遊んでみました。ソコンの画面をじっと見たり、聞こえてくる音を楽しんだりする姿が見られました。(使用したのは島根大学の伊藤史人先生が開発された「EyeMoT2D」「EyeMoT3D」というソフトです。伊藤先生のサイトでダウンロードすることができます。)

次は、自分の踊りたいダンスを選んで楽しむという場面を設定しました。Aさんは、ダンスの動画を見ながら身体を動かすのが大好きです。画面に提示された二つの写真のうち一方を見ることで、選んだ動画が流れる仕組みをプレゼンテーションソフトで作りました。「Aさんはどちらのダンスが踊りたいかな？選んでね。」と言葉掛けをしながらパソコンの画面を見せると、一方の写真を長く見つめ、動画を再生させることができました。

ここで課題となったのは、Aさんが操作しているパソコンの画面を、Aさんしか見ることができないということでした。他の人が近付くと、その人の視線をキャッチしてしまうこともあるので、Aさん以外は斜めからでないという画面を見ることができません。せっかくダンスの動画が流れても、周りの友達には画面が見えないので一緒に楽しむことができませんでした。

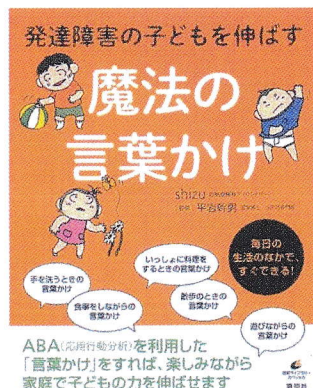


そこで、パソコンをプロジェクターにつなぎ、教室のホワイトボードに映すことにしました。すると、2枚の写真から一方をAさんが選ぶところを含め、教室にいるみんなが画面を見て共有することができました。ダンスの動画が再生されると、周りの友達も喜んで踊り出し、学級みんながダンスを楽しむことができました。自分が再生させたダンスで友達も一緒に楽しめるという経験は、Aさんの自己有用感につながっていくと思います。学級みんなが楽しめる遊びの時間になりました。

遊びの時間だけでなく、頑張った行事を選ぶときや、買物で買いたいジュースを選ぶときにも、この視線入力装置を使って、Aさんが視線で選ぶという方法を取り入れました。じっと見ると、選んだ方の写真が大きく表示される仕組みです。Aさんにとって視線入力、自分で周りに働き掛けるための有効な手段の一つであると言えます。

視線入力は、距離や角度によって精度が大きく変わってきます。姿勢やパソコンの位置を改善することで、より取り組みやすく、入力しやすい環境でAさんの意思表示ができるようにしていきたいと思います。

■ 書評



『発達障害の子どもを伸ばす魔法の言葉かけ』

shizu (自閉症療育アドバイザー) 著

平岩幹夫 (医学博士・小児科専門医) 監修

出版社 講談社

定価本体 1400円

著者である shizu さんは、自閉症の息子さんを育てるにあたり、ABA（応用行動分析）という療育法に出会い、生活の中でABAを使った実践をして、息子さんの言語能力や社会性を飛躍的に伸ばすことができました。その経験から、効果のあった「言葉掛けや行動のこつ」をこの本で紹介しています。この方法は、家庭だけでなく学校でも、教師も活用できるとともに、日々の指導の理論的裏付けになると思いました。

ABAは、北米から20年ほど前に入ってきた療育方法です。まず子どもの実態を観察し、課題を細かく分け、スモールステップで設定しチャレンジさせます。成功体験をさせることで、子どもの自己肯定感を高めます。いいことは褒めて強化し、定着を図ります。時には毅然とした態度で指示に従わせる場面も必要とあります。褒めることはABAの中で重要です。でも、褒めるときに人と比べたり、「やればできるじゃないの。」とか「次は言われなくてもやってね。」など余計な一言を加えていたりしたら、台無しです。子どもは「認められていない」と感じるのです。

イラストを多用して、よい支援と悪い支援を、左右見開きで比較・表示し、様々な場面やポイントごとに説明をしています。実践したくなる内容ばかりです。

■ 編集後記

サポート通信6月号を配付してから本11月号までに、「平成30年7月豪雨」が発生いたしました。豪雨により被災された方々に心からのお見舞いとお悔やみを申し上げます。

本号で報告しました様に、今夏も本校地域支援部およびサポートセンター主催の研修会に外部から多く参加していただきました。御参加の皆様の中には、交通遮断などで大変な状況にもかかわらず御来校いただいた方もおられたかと存じます。部員一同、ここに深く感謝申し上げます。

今年度後半も指導に役立つ新たな情報をお伝えしていきたいと思っております。

■ 記事に関するお問い合わせ

広島市立広島特別支援学校
〒734-0013
広島市南区出島四丁目1番1号
TEL (082) 250-7101
FAX (082) 250-7102
担当 林 美香子
(特別支援教育コーディネーター)

